

第12回・銀座書齋入居ビル・清掃活動レポート

2019年3月16日(土) 実施

2019年3月21日(木) 提出

英語道弟子課程 弟子 M.U.

第12回・銀座書齋入居セル・清掃活動E.
2019年3月16日(土)に行かせていただきました。

まず、これまでの清掃活動を通し、近頃、感じていることを
記させていたただきたいと思います。

清掃をさせていただいている時、あるいは、清掃を終えた後、
気持ちいいです、楽しいです、私自身、清められた気持ちになります。

もっとやってほしいという気持ちもあります。

気がさせていただけれることも多く、自分磨き(己を知ること)にもなります。

「けれど、これらは単なる“自己満足”、“自己陶醉”、もしくは、
“欲”にすぎないのではないかと感じ始めました。

自分磨きのために行う… “~のため” これは、「損得勘定・計算・
欲」です。

“清められた”… “それだ” というような境地であるのか、私はそこまで
至っていないためわかりません。

ローカルなイメージをもっていただけです。

それなのに“清められた”と思うことは、大きな勘違いであり、
私自身の傲慢さからくるものだと感じています。

そして、このことは、“清掃そのもの”に対する冒涇とも
言えるのではないかと感じるようになりました。

もっともっと、謙虚に清掃をしたいと思います。

真の謙虚とは何か、今の私にはまだわかりません。

ただ、謙虚になるうとして謙虚でいることではないのは確かです。
今は、目の前のことを丁寧に、行う、扱う、ということに努めます。

今回、生井先生よりいただいた清掃時間は、
午前8時から10時までの2時間でした。

先生は、7時からレッスンが入っており、8時5分には、
H.K.さんが英語稽古にみえろとのことでした。

箒と塵取り、そして水を汲んだバケツを、先生は前日(15日)の夜に
ご用意くださったと伺いました。

師である生井先生に、お背中にお痛みをお持ちの生井先生に、
自分が使う水を汲んでいただいていた上に、水で重くなった
バケツを運んでいただいていたことを、本当に申し訳なく思っております。

当日は、まず5階、次に6階と清掃を始め、
下の階へと移るとき、「下の窓を開けていたから」と気がまりました。

先生からのお言葉、「丁寧に、丁寧に」を心の中で言いながら、
一つひとつ開けに行きました。

1階まで掃き終え、拭き掃除に入った頃には、1階のお店の
方々が通られ、「おはようございます」とご挨拶を立せていただいたお礼に、
とても爽やかな笑顔でお答えくださいました。

自然に出る爽やかな笑顔、それは、その方のお心の美しさの証で
あると思います。

銀座書齋入居ビルの清掃活動を始めて行かせていただいた
2019年1月13日(日)の帰り道、「バケツの水を流したまま
帰って来てしまった」と気がきました。

流し台は、生井先生が「食器やコーヒーマップなど」を、いったん置かれる
場所でもあります。

それなのに、汚れたバケツの水を流した後、シンク内を水道水で
サッと流しただけで、掃除もせずに私は帰ってしまいました。

これは、茶道でたとえるなら、水屋を汚したまま帰る行為と同じであると
思いました。

今回、先生よりお許しをいただき、流し台の清掃もさせて
いただくことができました。

2019年3月16日付の生井先生の公式サイトに、H.K.さん
ご自身の第11回 銀座書齋入居ビル・清掃活動のレポートのPDFを
生井先生に送られた際のメールが掲載されていました。

その中で、今回の私の清掃活動について触れていただき、
大変恐縮しております。

私の方こそ、常に丁寧、詳細に勉強をされ、まっすぐに進まれている
H.K.さんのお姿から、多くのことを学ばせていただいております。

この度、H.K.さんよりいただいたお言葉を励みに、精進して参ります。

実は、あの時(午後5時55分頃)、私は、窮地に立たされていました。

H.K.さんの靴をそろえ、6階で、使い終え(に箒と塵取りを清めていたのですが)、左右の靴の位置が微妙にずれていたように思い、再び5階へ下り、位置を直していたその時、バサッと何か私の背中に被さってきました。

一瞬何か起きているのか全くわかりませんでした。

背中に被さったものを両手で支えながら、ゆっくりと顔を上げ、辺りの様子を見ると、私が支えていたものは、何と、靴入れの形に置かれている、たぶんのお手紙が飾られた大きなボードだったので、

そのボードは、石の飾られた台?の上に乗っていたもの。

その台の後3側に少し落ち、台と壁に挟まれたかたちで倒れてきていました。

↑ いまだに不思議です。

距離的に、ボードはもちろんだ、石の飾られた台にも私の頭が届くとは思いませんでした。それは私の思い込みで、恐らく、その台に、下を向いた際、触れてしまったのだと思います。これだけの事態となるほどののに、触れたことに気がませんでした。

そして、そのボードで何か、起こうとしても起きなかつたのです。

石の飾られた台も斜めになっており、上げさではなく、本当にあと1ミリでも動かしたら全ての石が落ちてしまうような状態でした。

けれど、その台とボード、それぞれを片手で押えることもできませんでした。

片手では、ボードを動かすどころか、重くて支えることすらできなかつたのです。

この石を落としてしまったら、どれだけの音かしてしまうのだろうか、落ちた石は階段を転がっていく...銀座書齋の中で行われている英語稽古に多大なご迷惑をかけるでしょう。そして、この石は、生井先生が大切に飾られている石、私にとっても大切な石。「絶対に落とさない!!」という思いでした。

どうしよう・・・間もなく H.K.さんが退室される時間だ。

このような状況、背中を向けたまま（実際は足しか見えない）ご挨拶を
 済ませることになってしまうのか。

それはなんとしても避けたい！

とにかく冷静になるうと努めました。

そこで聞かえてきたのは、生井先生の「丁寧に、丁寧に」というお言葉。

台に乗った石の様子を見ながら、ボードを慎重に、正に“ミリ単位”で
 動かしていき、なんとか起こすことができました。

6階へ上がったのは、9時5分直前でした。

間に合ったことが奇跡のように思います。

ボードを倒してしまったことで、ボードから外れてしまい、どこに飾られていたのか
 わからなくなってしまったお手紙が一枚ありました。

英語稽古を終えられた生井先生に正直にお伝えしました。

先生は、いったんボードを下ろし、お手紙を戻していただいた後、
 ボードを元の位置に戻しながら、いかに繊細に飾られているか
 という点を改めてお話しくださいました。

私の雑さ、鈍感さが大きく露呈したこの件は、この日の清掃活動について、
 H.K.さんが生井先生へ送られたメールに書いてくださったから、記録として、
 事実として、自分自身への戒めとして、レポートに残す機会をいただいたのだと
 思っております。ありがとうございました。

非常に印象深いものとなった今回の清掃活動を賜与して
 くださいました生井利率先生に、心より感謝いたします。
 ありがとうございました。